僕と先生は

周りからは大人しく
真面目な子と見られるが
僕は人見知りで無口だ

学校では友達ができず
頭も悪く授業のスピードに
追いつけなくて

成績順位はいつも
下から数えた方が早い

進学して新しい
学園生活をするため
自分を変えようと思った

けれど人間は
そんな簡単には
変われるものじゃ
なかった

「声が小さい」

「何言ってるか聞こえない」

「おまえ、うんうんしか言わないの？」

「真面目そうに見えてバカなんだな」

今までと同じ友達すらできない暗い青春を送るんだそう思ってた

橘先生が僕を誘うまで

先生はヒステリックで
生徒に対してよく
怒鳴り散らして
みんなから嫌われてた

旦那と上手く
いってないストレスを
生徒にぶつけてるんだろう

中には先生の体が
魅力的で
好きな人も
居るようだっけど

僕は苦手な
タイプだった

そんな橘先生は
eスポーツ部の
顧問だった

ゲームして遊ぶ
部活動だと思い
入部してたが
大きな間違いだった

先生はとても厳しく罵倒し
遊び感覚でゲーム部に
入部した人は来なくなり

今ではボク
一人だけになった

「愚図でバカな
あんた一人じゃ
ここも廃部ね」

「あなた本当に
何も言い返せない
根性なしね」

教師として
あるまじき暴言を繰り返すが
僕は何も言い返せず
謝る事しかできなかった

「本当に
おちんちん
付いてるのかしら？」

そう言うと
先生は足で
僕の股間を踏みつけた

痛いから止めてください
と悲願してもより強く股間を
踏みつけ情けなくも
刺激で勃起してしまう

先生は見下ろす形で笑っていた
はぁ
ビクッ
ぐいぐい
ビクッ
僕は怖くて何もできず足で踏み続けられ射精をしてまった
ぐぁ
ビクッ
ビュッ
ビュッ

とても恥ずかしく
屈辱的な気分だった

!!!

ボロ

僕の感情などは
無視して先生は
無理やりズボンを
おろしペニスが露に

獲物を狩るような
顔つきでペニスを
舐め下ろしていた

ズズ

ズズズズ

先生の舌が僕のペニスを舐めまわす

ぺろ♡

ぺろ♡

ぺろ♡

手とは違う初めての刺激にペニスが幸せになる

ぺろ♡

ぺろ♡

冷酷で厳しく怖い先生が僕のペニスをしゃぶり精子を欲するように吸い取る光景をみるなんて

ぢゅるるるぅぅぅ♡

ぢゅるるるぅぅぅ♡

先生はもしかして
僕の事が好きで
虐めてたのかもしれない

そう思うと愛しくなり
先生の口の中で
射精してしまった

ぢゅぱぁぁ
ぢゅぱ
キュッ
んはぁ〜
怒鳴られると思ってたけど
先生は微笑んで
「あなたの精子濃くて美味しいわ」
ぱっ
ぎゅっ
ぎゅっ
人に褒められたことがない
僕は先生に認められた気がして
レイプされてるにも
関わらず嬉しく思ってしまった
ドキッ

先生は僕を見せつける様に
パンティーを見せつけた

「ここに興味が
あるんでしょ？」
と僕に挑発してきた

ドッ

ドッ

ドッ

「は…はい
マンコが見たいです」
僕は正直に答えた
男性なら誰しもが
そう答えるはずだ

ドキ

ドキ

ドキ

先生はパンティーを
捨ておもむろに
僕の顔に女性器を
押し付けてきた

はぁ♡

はぁ♡

どぎ

どぎ

とろぉ♡

ふぅ♡

ふぅ♡

ドキ♡

ドキ♡

舐めるように命令され
言われるがまま
マンコを舐める

アンモニアと
汗の臭い匂いがして
にがい味がする
嗚咽しても先生は
腰を止めることなく
先生は獣の様な喘ぎ声を
臆面もなく出していた
あっ♡
あぁっ♡
ちゅぱ
ちゅぱ
はぁ…
あぁ…
はぁ…
ぢゅぱっ
ぬちゃッ
ぢゅぱっ
ひぐッ
あは♡
お♡
ビクッ♡
ちゅぱッ
ちゅぱッ
くみッ
ちゅぱッ
んっ…♡
ビクッ♡
しゅぷっ♡
ビクッ♡
ちゅぱッ
ちゅぱッ
ちゅぱッ
ちゅぱッ

僕の顔はマンコから
飛び散った
マン汁まみれになり
臭いにおいで死にかけた

先生の中は温かく
締め付けが強く
痛いくらいだった

あぁ
あぁ
あぁ
パチッ
パンッ
パンッ
パンッ
パンッ

僕の童貞がレイプされて
卒業するなんて

ぎっ
ひっ
バスッ
バスッ
バスッ
バスッ
バチッ!!
バチッ!!
バスッ
ぎっ

自分の欲求を満たすようによがり狂う
あぁ♡
あっ♡
はぁ~♡
あぁっ♡
あぁっ♡
先生は僕の事など気にすることなく腰振り続ける
パンッ
パンッ
パンッ

先生のマンコが気持ちよすぎて
何度も射精してしまうが
止まる気配がなく
僕を貪りつくした

「頭も体も貧弱だけど
ここだけは優秀なのね」

先生はそう言いながら
僕のペニスを踏みつける

悪魔の表情で見下ろし
僕は恐怖で
抵抗することができなかった

あっ
おっ
パン
パン
パン
パン
その後は先生の
性奴隷となり
僕は言われるがまま
先生のマンコに
チンコを入れ
欲求を解消していく
んん
あ
くりっ
くりっ
くりっ
くりっ
はあ
ぐっ
ぐっ
ぐっ
ぐっ

なんで僕を虐めるのか
聞いてみたら
無口で弱く友達も居ない
僕みたいな男が
一番扱いやすいそうだ
先生は既婚者なのに
生徒を性奴隷にして
遊んでいたのだろうか？
はぁ♡
はぁ♡
ちゅぱっ
ちゅぱっ
ちゅぱっ
ちゅぱっ
むにぃ…っ♡
くに
くに
むぢゅっ
むぢゅっ

ヒステリックだった
先生は僕を
性奴隷にしてからは
うって変わって
優しい先生になり

生徒から人気者になっていた
噂だと旦那の関係が
上手くいってなく
それが解決したからだとか

元々ヒステリックな
先生でもなかったらしい

僕の読み通り旦那と
セックスレスで
僕のチンポで
欲求解消されたからだ

先生は程なくして妊娠してしまう
体の具合を心配する
僕を余所にしてセックスし続ける

半年も経つとお腹が膨らみ
妊娠してお腹が膨れることに
命の神秘と重さを感じてしまう

これ以上セックスし続けると
お腹の子に支障きたすから
止めようと先生に懇願すると

教師を辞めると告げられ
これで最後と言われた

僕は安心したような
でも寂しいような
複雑な心境になってしまった
学校では相変わらず
友達もできず
ひたすら先生との
セックスに没頭した
日々だった
先生は赤子を産み
言ってた通り
教師を辞める事になった

僕はただ最初っから
最後まで
利用されてたんだ

春の別れ
失恋の様な気持ちに
覆いつくされた